

昭和十六年六月二十五日 星期一
昭和十六年七月一日(毎月一回)日發行

新報社

道路の改良

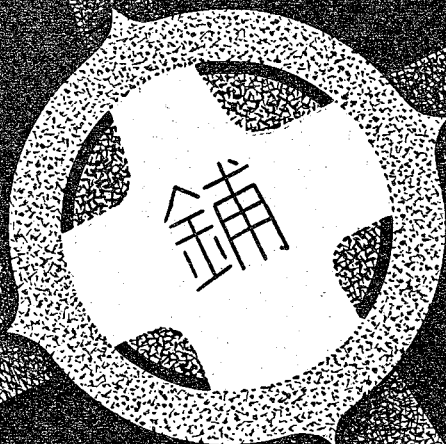
W
21

第二十三卷 第七號



道路改良會 社法人

鋪裝報國



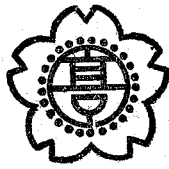
東京・丸ノ内

日本鋪道株式會社

社長 淺利三期

東京・大阪・福岡・札幌・京城・臺北・新京・橫濱・名古屋・京都

土木建築
道路鋪裝
工事請負



株式會社 高野組

本社

東京市京橋區京橋一ノ二
電話京橋(56)長七八九二五番

大阪出張所

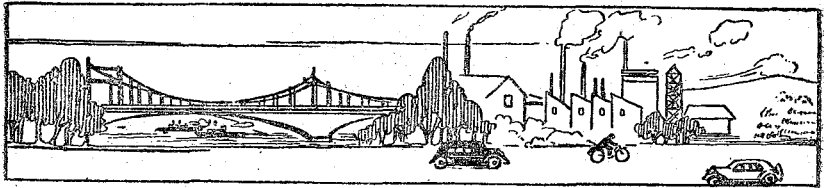
大阪市北區梅ヶ枝町一五七(梅ヶ枝ビル)
電話北(36)一九五六番

福岡出張所

福岡市外箱崎町白濱網屋三一二一
電話東三三三四五番

上海出張所

上海吳淞町一八九九號
電話四三二二一三番



「道路の改良」第二十三卷第七號 目次 昭和十六年七月一日發行

口繪

獨逸勞働力の結晶たる自動車専用道路の橋梁

卷頭言

論 說

航空港と道路其他……………日本大學教授 松葉榮重(三)

研 究

借地權の損失補償料算定に就て……………東京府土木部
道路課 高田恒三(三)

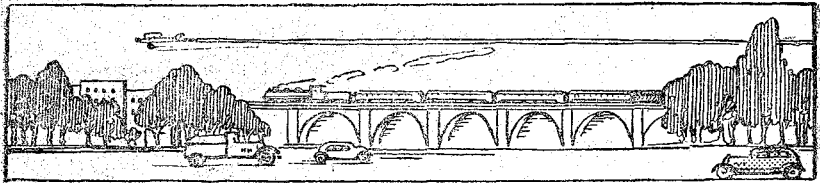
資 料

慣性モーメントの圖式計算(三)……………小野竹之助(二)

說 苑

内務技監の今昔(二) 原田貞介氏……………清水生(七)

北海道の土木專業獎勵に就て……………北海道廳 有岡富次(五)



道路愛護運動の經過と功績者の表彰……………大分縣經濟部土木課(三)

時局日誌(四十五)……………Y H 生(六)

内務省特報

大政翼賛會◎道各府縣の市名……………(六)

法令

例規 土地收用法ニ依ル收用審査會ノ損失補償額裁決……………(九一)

關スル疑義ノ件……………(九一)

最近内務省に於ける路政關係行政處分例……………K S 生(二)

雜報

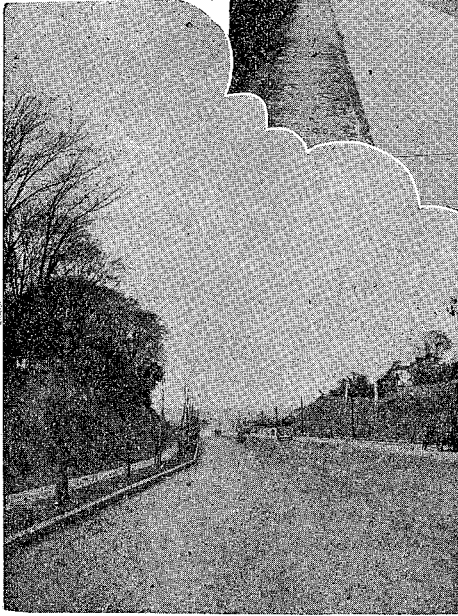
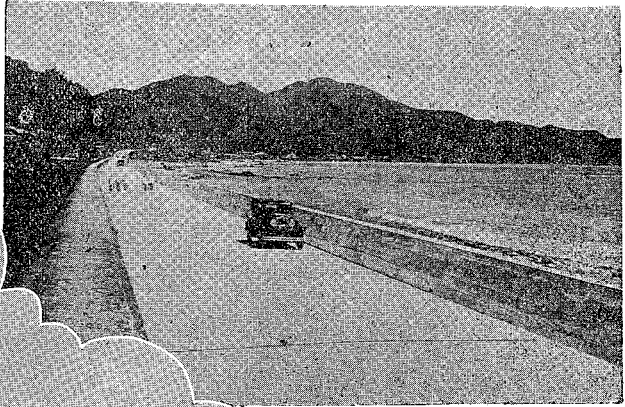
◎理事會開催◎第二十二回定時會員總會並評議員會◎科學技術新團體制確立に關する

聲明書發表◎港灣協會總會◎内務省土木試驗所談話會◎近刊圖書雜誌……………(一〇〇)

叙任辭令……………(一〇六)

編輯室の内外……………(一〇八)

附錄 改正自動車交通事業法及附屬命令(其ノ五)



淺野ポルトランドセメント
一般工事用

淺野高爐セメント

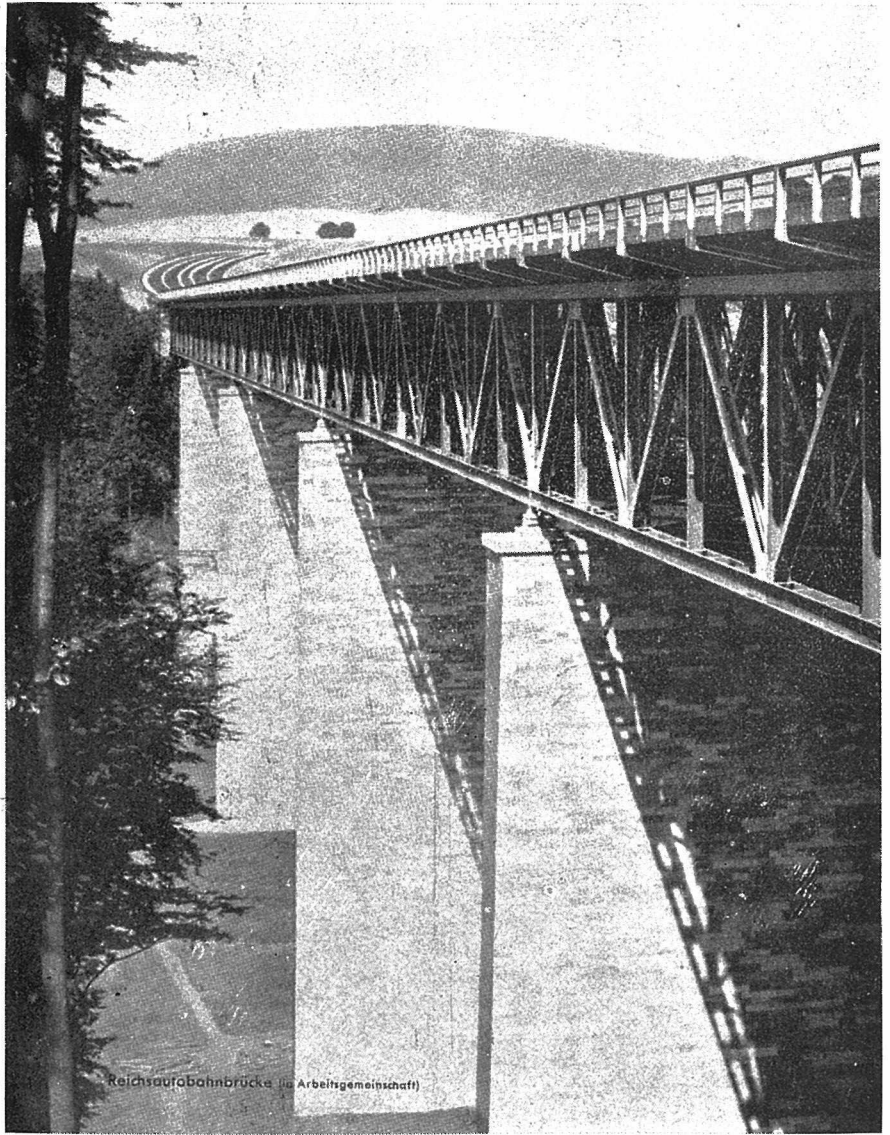
下水工事ニ
好適

淺野ベロセメント

短期高强度
工事期間短縮
工事費節約

淺野セメント株式會社

東京市丸ノ内海上ビル



Reichsautobahnbrücke (in Arbeitgemeinschaft)

獨逸勞動力の結晶たる自動車専用道路の橋梁

昭和十六年

道路の改良

七月一日

第三十二卷

第七號

支那事變の處理は一日も速かに之を完遂し以て國際處理に全力を傾注しなければならぬ。而かも支那事變の目的が去る昭和十四年十二月二十二日に聲明せられたる處に存する、即ち「日滿支三國は東亞新秩序の建設を共同の目的として結合し相互に善隣友好、共同防共、經濟提携の實を擧げんとするものである」と云ふに在る。然るに其の後の國際關係は微妙し奇なる作用を惹起し、遂に日獨伊の樞軸協定を爲すの已むなきに至らしめ一段と英米をして援蔭工作に邁進せしむることとなつた。

汪精衛氏は此の形勢を看て敢然として起ち、國民政府を樹立して着々其の基礎を鞏固したのである、或は阿部大使を迎へて協議し、或は本多大使と懇談を遂げ、遂に中華民國國民政府主席行政院々長汪精衛氏は新中央政府成立以來日本の各方面より寄せられたる厚意に應へるとともに日華兩國間の協力に關し日本の要路と懇談せんが爲め來朝せられたのである。故に先づ第一聲として「我國を支援せらる貴國の御好意に對し感謝の忱を表すと共に兩國間に於て協力すべき各種の根本問題につき貴國政府當局と懇談せんが爲にあり且本日本日中華民國政府主席として、天皇皇后兩陛下に謁し親しく我國政府及全國國民の深甚なる感謝の意を獻ぐるを得ましたことは誠に光榮の至りでありませう云々」と述べられた。

「東亞百年の和平の基礎確定するに至れり先進國たる日本がかゝる正々堂々たる主張をなされた以上中國は當然これに追隨して努力すべきこととなり」「國民政府一同は如何なる困難ありともこれを克服する決心あり目的を達成することは尙幾多の困難あり。國民政府は誠意自らの使命を果し一方誠心誠意日本の支援を受けんとするものなり」「吾人は支那を愛し、日本を愛し、東亞を愛し此の三つの愛を打つて一丸となして邁進すべし」と唱へた。

近衛首相汪主席の共同聲明の中に「我等會談の結果日華兩國政府は右共同の目標に向つて一層の努力を爲すべきことを誓ひたり、國民政府は政治上軍事上經濟上文化上日華提携協力の具體的事實を提供し、民衆をして日華合作東亞復興が日華兩國國民の共同の使命たることを知らしむるに努むべく日本國政府亦之に對して一層の援助を與へ、國民政府をして能く獨立自由の權能を發揮せしめ以て東亞新秩序建設の責任を分擔せしむるに努力せんとす」とある。

會て汪氏は「深き反省と深き責任を感じ以て己を罪するの精神」との題下に「中國は非侵略者であるから日本が撤兵さへすれば解決すると論ずる者に警告した」然り、汪氏克く日本を諷解し、日本の支援に依り其の和平を招來せんことを欲するのである。惟ふに政府獨り斯く聲明するも、國民に於て何等關知せざるもの如き状態にありては何等の效を奏せざるのみか、今日の困苦は更らに更らに甚しきを加へ永年救ふべからざる状態に陥るやも知るべからず、國民克く此に鑑み一致困苦を克服して政府に協力し先づ東亞に眞の和平をもたらし、斯くて國際的關係に立ちて其の模範を示すべきものである。(洮民)